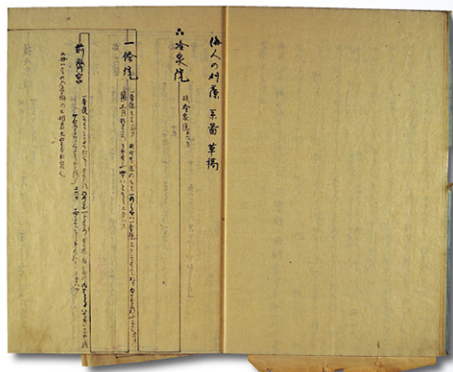
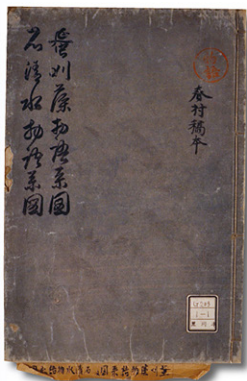


『蜚川藻物語系図・年立』



兩架番号 G-209。縦 23.3cm×横 15.7cm。袋綴。楮紙。左肩直書外題「蜚川藻物語系図 石清水物語系図」。薄縹色無地紙表紙。表紙右に直書で「春村稿本」。一丁表右上に、「ノートルダム清心女子大学図書之印」、右下に「黒川真道蔵書」の朱陽印。内題「蜚川藻物語系図年立 石清水物語系図」。天保 13 年 (1842) 3 月写。

奥書「右系図年立など一 わたりよみ見るについてにかりそめに書つけつれと誤字脱文などあまたあれとこまやかには弁へかたくてたかへるふし多かめれば猶よ

き本をえて比較せまほし 天保十年三月写 (花押)」

中世王朝物語である『海人の刈藻』は、原本が平安末期に作成され、鎌倉後期以降に改作されたものと考えられている。現存本は改作本である。本書は、黒川春村の稿本であり、『海人の刈藻』改作の事情を冒頭で語り、その後、系図と年立が載る。さらに巻末に同じく中世王朝物語の『石清水物語』の系図が1枚貼り付けられている。本書は、近世末の物語研究の一書として、また国学者黒川春村の研究を知る上で、大変貴重なものである。

(文学部日本語日本文学科 准教授 新美哲彦)